APAY eNews

翻訳：永岡美咲（日本YMCA同盟）

インターナショナル・ワークキャンプ（インドネシア・スラバヤ）10 月 1 日～10 月 7 日

Julia Mun Pan

アジア・太平洋YMCA同盟（APAY）のユース・エンパワーメントに関するプログラムの一環として、この 4 か年（2011 年～2015 年）で初めてとなるインターナショナル・ワークキャンプがインドネシア・スラバヤで、10 月 1 日～7 日に開催されました。このワークキャンプには、バングラデシュ、香港、インドネシア、日本、マカオ、ミャンマー、フィリピンとスリランカの計 8 か国・地域から総勢 35 人が参加しました。そのうち、APAY ユース参画リーダーシップ開発委員会（YPLD＝ユース委員会）から 4 人、ユース代表が 6 人、他にYMCAとのかかわりをもつ参加者が 6 人、地元ユースが 17 人、そして APAY スタッフが 2 人でした。

このプログラムは、開会礼拝と、ホストのスラバヤYMCAとインドネシアYMCA同盟によるオリエンテーションから始まりました。続いて、ユース委員会によるアイスブレーキング・ゲームが行われました。ユース委員会委員長の Alvin Kan 氏が、APAY のユース・エンパワーメントのビジョンと世界YMCA同盟による NEW WAY のチェンジ・エージェント・モデルを示すなど、リーダーシップ開発に関するインプット・セッションを担当しました。そして、APAY 主任主事の Duncan Chowdury 氏より、インドネシアYMCAの沿革・歴史やミッション・使命に関するプレゼンテーションと、APAY の地球市民のコンセプトの概要について話されました。A. Vira Harawati 氏より、インドネシアのコミュニティーの社会経済的な現状についてお話をいただき、インドネシアYMCA同盟総主事 Retha Andoea 氏より、インドネシアのYMCAおよびスラバヤYMCAのバックグラウンドと現状について報告されました。プレゼンテーションの合間には、さまざまなチーム・ビルディング・ゲームがユース委員やユース代表によって行われました。

次の日は、参加者が 2 つのグループに分かれ、Joyoboyo と Pondok Hayat という貧しいコミュニティーへのエクスポージャー（フィールド・ワーク）に出かけました。コミュニティー訪問は午前中いっぱいを使って行われ、午後には各参加者がエクスポージャーで学んだことに関して、40 秒で振り返り、感想をシェアしました。感想のシェアや話し合い・ディスカッションを通じ、主要な問題は教育と中絶であることが分かりました。報告者 Mark Clester Rufino 氏が、YMCAユース・クラブの運営するプログラム開発に関するプレゼンテーションを行いました。続いて、スラバヤYMCA敷地内で、バスケットボールや楽しいゲームなど屋外での活動が行われました。

3 日目の午前中は、ユース・グループ、クリエーティブ・キッズ・チーム、カルチャー・フェスティバル運営チームの 3 つに分かれ、それぞれに与えられた課題を行いました。地元からの参加者のほとんどは、海外からの参加者がそれぞれのYMCAでユース・クラブを結成し、プログラムを行ってきた経験をシェアするというユース・グループに加

わりました。これによって、地元の参加者たちは、スラバヤYMCAでユース・グループをどのようにつくればよいか、アイディアを得ることができました。クリエーティブ・キッズ・チームは、幼稚園の先生たちと一緒に、子どもたちに歌やお絵かき、折り紙やゲームなどを教えました。参加者の中には、日曜学校や英語の先生をしている人など、子どもたちに教えた経験がありました。

同日午後には、それぞれのグループでカルチュラル・イベントの際に発表する、地球市民育成に関連したパフォーマンスを準備しました。続いて、バングラデシュとスリランカからの参加者によるプレゼンテーションが行われました。次に、スラバヤYMCA敷地内の壁のペンキ塗りを全員がボランティアとして行いました。

ワークキャンプの活動の最終日には、APAY インターンの Julia Mun Pan 氏より、アクション・プラン（行動計画）の策定の仕方が説明され、APAY の補助金申込書が紹介されました。続いて、3 グループに分かれ、スラバヤでのユース・クラブの結成と運営を含む、アクション・プラン作成を行いました。午後には、各グループで APAY やインドネシアYMCA同盟のアクション・プランを発表しました。期待されているのは、このキャンプの直後に、スラバヤのYMCAとしてフォローアップが行われ、インドネシアYMCA同盟のガイダンスを通してユース・クラブを結成することです。閉会式が夕刻に行われました。Wonoriki 村にあるブロモ山（Mt. Bromo）観光は次の日に行われました。

日本からは水野真彩氏（横浜YMCA・バンコクYMCAパヤオセンター）、中道愛子氏（神戸YMCA）が参加しました。

インターナショナル・ワークキャンプの後・・・

Lydia Laurina Pristy （インドネシア・ジョグジャカルタ）

スラバヤで行われた APAY によるインターナショナル・ワークキャンプは、私が参加した中でもユニークなイベントでした。私たちは、自分たちにもっと力が備われば、もっといろいろなことができるし、達成できると思います。このイベントの後で、スラバヤのYMCAとユースが団結した活動がより重要です。フォローアップ・アクションとしてのみ、ワークキャンプがYMCAでユース・クラブとコミュニティーという新しい目的や勢いを発することができるのです。

Fransisca Grace （インドネシア・スラバヤ）

APAY インターナショナル・ワークキャンプが始まるまで、私はYMCAについて詳しく知りませんでした。YMCAのことについての話を常にシェアしてくれるアジア・太平洋地域から来たユースと出会い、友だちになるということは、私にとってよい思い出です。彼らからの力添えがあり、スラバヤのYMCAについてよりよく知り、またかかわることができました。インドネシアやAPAY のすべての友だちのやる気（spirit）、サポートや情報のインプットがあってこそ、時間をかけながら熟慮し始めたとき、スラバヤYMCAユース・クラブの期待に応えられることができます。

総主事デスクより・・・
100 周年を迎えた中国のYMCA

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
山田公平

中国のYMCAは、1890 年代、学生YMCAから始まり、天津YMCAが最初の都市 Y として発足。そして、ちょうど 100 年前の 1912 年、

全国協会（同盟）が結成されました。孫文などが各地のYMCA発足を促したという歴史もあります。その後、内戦、さらには日本軍による侵略と第二次大戦、さらに戦後、革命で中国共産党政権が発足、さらには、60 年代から始まった文化大革命に突入。そこでYMCAの活動はほぼ全面停止となっていきました。その間、YMCAの所有していた建物など財産はほとんど、他の目的のために使われ、80 年代に入り、やっとYMCAが再開できる運びとなっていった。現在までにこれらのうち、10 都市にYMCAが展開されています。

これらの都市YMCAの多くは、すでに 100 周年を迎えています。天津(1897)、上海(1900)、北京と広州(1909)、成都(1910)、武漢(1911)、アモイ、南京および中華YMCA全国協会（同盟）(1912)、さらには今後、西安と杭州が 1914 年設立であるので、数年後に 100 周年を迎えることになります。今回、10 月にはまず同盟結成 100 周年を祝い、さらには連続して南京とアモイの 100 周年記念式典が行われ、APAY を代表して参加してきました。

中華全国協会（同盟）結成 100 年の今年 5 月に、同盟総会が 1930 年以降始めて行われました。それまでは、役員はほとんど上海出身ですでに 80 代、90 代の方たちばかりでした。今回の総会で新しい理事長、副理事長はじめ、全国から新しい役員が改選され、さらには元武漢YMCA総主事であった涂（Tu）さんが全国協会（同盟）総主事に選ばれました。

最近の中国経済の発展はすさまじく、特にYMCAが存在する 10 都市はそろって大きなそして急激な経済的発展を遂げていました。この経済発展と共に、もっと細かな福祉サービス、学校外での文化活動、ボランティア活動の導入などYMCAへの期待も高まっていきました。特に若者へのサービスの必要性が高く、行政からYMCAへサービス拡大への期待が大きくなりつつあります。ボランティアもどんどん増え、YMCAの知名度も各地で高まりつつあります。たとえば、南京YMCAでは、文化活動（ダンス、音楽、語学、キャンプなど）やボランティア活動の紹介とそのトレーニングへの要望が急激に高まってきています。中でも障がい者や高齢者への対応をYMCAがどんどん展開して、通所施設の運営や、ボランティアによるケアなど次々と展開するようになりました。これは小さい規模のアモイYMCAでも見られる傾向でした。

アモイは中国の南東地区の東アジア諸国に面したところにあり、昔から東アジア諸国との交流の中心となっていた都市です。今回も、その 100 周年事業に、台湾、韓国、香港、マカオなどから沢山のゲストが参加し、大規模の合同演奏会が開催されました。台湾からは、3 つのYMCAから 70～80 名の音楽愛好家があつまり、一緒にコーラスや楽器演奏を披露しました。聞くと、毎年このようなコンサートが開かれているとのことで、政治的な関係とは別の世界を見たような行事でした。

今回の 3 箇所で行われた 100 周年記念式典には、多くの海外からのゲストが集まり、パートナーシップを大切にしていること、そして行政（宗教局）がYMCAと共に 100 周年を祝っているような関係の深さを感じました。 変化しつつある、中国のYMCAを強く感じた 100 周年行事でした。

リソース・モビリゼーション・ワークショップ

2012 年 10 月
Eloisa Borreo

インド北部のYMCA対象の初となるリソース・モビリゼーションに関するワークショップが、10 月 2 日～4 日、インド・プネで開かれました。開会プログラムには、インドYMCA同盟やプネ地域にある各YMCAの主要なリーダーが出席しました。38 人の出席者が 10 のYMCAから来ました。開会の挨拶として、Ron Coulombe 氏より「リソース・モビリゼーションは簡単なタスクではありません。時間がかかるものです。なぜなら、まず役員やスタッフがフィランソロピー（慈善、人類愛）の精神を養い、そして時間をかけてフィランソロピーの文化や私たちのYMCAの寄付文化を発展させる必要があるからです」という言葉をいただきました。

一連のプログラム／アジェンダは、コンサルタントやリソース・パーソンである Ron Coulombe 氏や Brenda Blakovich 氏によって行われ、参加者は以下のような質問

の答えを含む、学びを得ました。その質問とは、YMCAに対する心の中の思いとは、リソース・モビリゼーションに対する希望と不安、フィランソロピーの精神を発展させるための原理や概念に関するインプット、求めること／与えることへの献身（spirituality）、実践的なケースについて、資金のみに焦点を当てたキャンペーンのような目標設定、キャンペーン名称の選択、レイパーソンとスタッフの役割、リーダーの指名、誰に対して求めるかと誰が求め人となるか、寄付者を探す、などの課題を通して、それぞれの内容や寄付を求めた後の感想や求めること／与えること喜びなど。ワークショップの終わりを迎えるにあたり、それぞれのYMCAは目標金額を 3,258,000 ルピーと設定しました。10 月 4 日の朝に行われた年度最初のキャンペーンでは、このワークショップに参加した役員や他のYMCAのスタッフや会員から、総額 315,100 ルピーが寄せられました。インド北部地域のキャンペーンの期間は 2012 年 10 月 4 日～2013 年 2 月 4 日です。最初のキャンペーンの名称として選ばれたのは、「YMCA、あなたが人生／生活（life）を変える　キャンペーン」です。しかし、これはインド全体のYMCAとしてコーディネートされているため、他の地域がつけるキャンペーン名称によっては、変更されるかもしれません。

南インドのYMCA対象のワークショップは、ケーララ州トリバンドラムYMCAにて、10 月 6 日～8 日に開催されました。10 のYMCAから、APAY スタッフやリソース・パーソンを含む 42 人が出席しました。リソース・パーソンの、Ron Coulombe 氏、Jamie Inman 氏、Eloisa Borreo 氏は、最初のワークショップからの経験を分析し、振り返り・感想をシェアしました。初回のワークショップで得た着想や刺激は、二回目以降のワークショップを改善しながら行う際に重要なものです。リソース・パーソンたちは、「YMCAに対する心の中の思いとは」という質問に対する参加者たちの意見を引き出すために、新たな戦略を立てることにしました。そこで、参加者はそれぞれのグループに分かれ、円卓上で彼ら・彼女らの答えを書き出し、話し合いました。そして、それぞれのYMCAで過去のリソース・モビリゼーションで経験した成功や課題などをシェアしました。それらの事例の分析や共有から、キャンペーン名称は「シェア 4 チェンジ」と名付けられ、4 つの小項目として、ユースをエンパワーすること、健康と健康的な生活、ジェンダー公正と持続可能な開発が挙げられました。目標総額は 7,350,000 ルピーと設定され、キャンペーン立ち上げの募金には合計 1,767,000 ルピー集まり、他の寄付等は 3,485 ドルとなりました。キャンペーン期間は同じく 4 か月です。各地のリーダーがトレーニングを受け、2 年目のワークショップにかかわり、そのトレーニングを受けたリーダーたちがそれぞれ地元のリーダーたちを育てます。ボランティア・コンサルタントやリソース・パーソンたちは、それぞれの事例を進展させるべく、ボランティアや寄付者、パートナーや募金管理者への受領、記録、報告や感謝に関するフォーマット等の書類を含むキャンペーンの基礎作りにおいて、それぞれのリーダーたちや各地のYMCAと密接にかかわります。フォーマット作成などは、リソース・モビリゼーションやファンドレイズ・キャンペーンの成功の鍵なのです。

2 週間にわたって 3 回行われた最後のワークショップはスリランカYMCA同盟によって、ニゴンボにあるインターナショナルYMCAハウス・研修センターで行われました。カナダ・シムコー／ムスコカ（Simcoe/Muskoka）YMCAの Jessica Rawn 氏がボランティア・コンサルタント／リソース・パーソンとして、APAY リソース・モビリゼーションのボランティア・コンサルタントである Ron Coulombe 氏とともに加わり、このワークショップは 3 つのYMCAとスリランカ同盟から 25 人が出席しました。

開会の言葉では、リソース・モビリゼーションはお金だけではなく、YMCAがミッションを果たすことができるよう、ともに働くコミュニティーにYMCAを位置づけ、関係を構築することである、と述べられました。Jessica による紹介とシェアは、参加者を効果的に刺激し、彼ら・彼女らが「YMCAに対する心の中の思いとは」という問いに対する答えを導き出しました。25 人しか参加者がおらず、また時間もたっぷりあったため、参加者は一人ひとり彼ら・彼女らのYMCAに対する心の中の思いを順に話しました。インプット、話し合いや数回にわたる実践研修の後、このグループはキャンペーン名称を「助けの得られない人を助けよ

う」とし、キャンペーンの目標金額は 688,500 ルピーと決められました。キャンペーン立ち上げで寄せられた募金金額は 338,900 ルピーで、期間は 2013 年 2 月 14 日までです。

この 3 回目のワークショップの後にシェアし、振り返ったところでは、それぞれの地域でリソース・パーソン／コンサルタントと参加者は自然に打ち解けるようだということです。今回の訪問はすべて、それぞれのYMCAやそのプログラムを理解するだけでなく、各YMCAのリーダーやスタッフ、会員との関係性を構築するのに、大いに役立つものでした。

ソーシャル・エコノミーへの関与

Duncan Chowdhury

ソーシャル・エコノミーは、現代において、市場経済が経済的に人々を完全に解放できなかった際、代替となる経済システムであると考えられています。第二次世界大戦後の 20 世紀においてブレトン・ウッズ体制がもたらした結果からは、南側諸国（発展途上国）の大衆にとって、何もよい知らせがありませんでした。市場経済は利益性という価値観のみにとどまり、世界を富裕層と貧困層に分け、その格差は絶えず拡大しています。近年のアメリカやヨーロッパでの景気後退は、人々に計り知れない苦しみを与え、救済措置の手続きは金融機関のみの利益を拡大した一方で、大衆の大多数は貧困の中に取り残されました。

このような状況において、協力、相互の尊敬、社会的企業、社会福祉という価値観に基づいた、経済を育む代替の方法が必要とされていました。ソーシャル・エコノミーは「第 3 セクター」や「非営利セクター」と定義され、経済と社会福祉の双方に配慮しつつ、国家と市場の間にあるさまざまな組織と関係しています。その組織には、組合、伝統のある生協、社会協同組合、慈善事業、基金や他のタイプの組織が含まれます。これらの組織は通常、利益を分配せず、自身の使命の効果を累積的にするために、利益を再び投資します。ボランティアは、ソーシャル・エコノミーの鍵となる人材です。これらの組織の意思決定機関は、一般的にボランティアで成り立っています。歴史的な考察によると、人々が社会的に抑圧されている際には、自分たちの相互的な利益のため、人々は連帯し、社会的企業を結成するのです。このような企業のあり方は、北側諸国（先進国）だけでなく、南側諸国（発展途上国）でも流行しているのです。

ソーシャル・エコノミーに共通する特徴は、連帯感や相互関係を深化させることです。これら企業は共通のニーズに尽くし、奉仕するために設立されたものであり、消費者自身によって運営されており、利益のためでなく最もリーズナブルによりよい製品やサービスを提供しようとしています。その利益は、出資者の更なる利益のために再び投資されます。「一人一票」の原則に基づいた運営で、相互への尊敬が高く保たれています。役員は出資者に直接的な説明責任を持ちます。社会的企業の出現は、社会的リーダーシップとボランティア活動のための場を創出しました。

社会的なボランティア組織であるYMCAは、人間の全人的な成長を目指す社会的企業としても定義づけることができます。しかしながら、YMCAでは、人々の経済的発展という観点においては、これまでほとんど議論されずにきました。この状況で、YMCAが人々の経済的な解放を目指す社会的企業となるのには、十分な余地があります。人々の経済的なニーズに応えるという必要性は、人々の福祉に関して重要となります。特に、2011 年 12 月にシンガポールで開かれた APAY 指導者円卓会議、2012 年 3 月の戦略計画策定と、その戦略計画が採用された常務委員会においてそのように感じることができました。ソーシャル・エコノミーは、4 か年の重点事項として APAY 戦略計画の中に、組み込まれています。これらを念頭に置いたうえで APAY は、各国YMCAのリーダーを対象としたソーシャル・エコノミーに関するワークショップを 2013 年 5 月か 6 月に以下の目的で開催することを予定しています。

1. ソーシャル・エコノミーについて、参加者の知識を深めること
2. ソーシャル・エコノミーに関する直接の体験をするため、モデルとなる社会的企業を訪れること

3. ソーシャル・エコノミーにかかわるYMCAや、この分野で先駆的な他の NGO の実践について学ぶこと
4. ソーシャル・エコノミーへの関与が増したYMCAの可能性について考える
5. ソーシャル・エコノミーにさらに関与していくため、APAY の枠組みを発展させる

各国YMCAに参加者呼びかけを行い、各国YMCA、各YMCAより、全 25 人程度のレイパーソンやスタッフの参加が期待されています。

韓国のいくつかのYMCAが、社会的企業プログラムを展開し効果をあげており、ソーシャル・エコノミーの分野での専門知識を持っていることから、韓国でこのワークショップを開催するのが適当であると考えています。このことは、社会的企業の経験を持つ韓国のYMCAをより豊かにすることで、ワークショップの効果を高めるでしょう。ワークショップの期間は 5 日間の予定です。このワークショップが、アジア・太平洋地域のYMCAにとって、社会的企業の発展に寄与するため、また人々を経済的に解放しようと努めるための起点となることを期待します。

ICF、人権に関するワークショップ開催 インドネシア

9 月 23 日～29 日まで、ジャカルタで開催された宗教間協力フォーラム（Interfaith Cooperation Forum: ICF）による人権に関するワークショップには、カンボジア、フィリピン、そしてホスト国であるインドネシア出身の平和学校（School of Peace：SOP）の修了生 6 名が参加しました。このワークショップは、アジア・太平洋地域、サブリージョン、各国レベルにおける今後の ICF プログラムで人権問題に関するリソース・パーソンとなれるよう、参加者に人権についての知識を提供することが目的で行われました。

ワークショップ中、参加者たちは、人権の定義、人権の歴史的な発展、人々の権利に与える文化の影響、人々の権利の尊重を妨げる障害、人権文化の創生や、人権侵害を記録する方法と、人権を守るためにその記録をこのインドネシアでの人権ワークショップでどのように活用するかについて学びました。

しかしながら、このワークショップの全体的な焦点は、国連の人権システムを通し、法的に人権を監視することでした。したがって参加者たちは、世界人権宣言や他の国連による公民権、経済、社会、文化に関する権利や拷問など人権に関する条約について調査しました。

人権問題に関するリソース・パーソンになるための準備をさらに進めるため、来年早々にフォローアップのワークショップが、国連の女性と子どもの権利に関する協定や、人権の改悪の影響について開かれます。しかしながら、次のプログラムの主要なねらいは、モラルや宗教的な観点から見た人権についてとなる予定です。

ICF 運営委員会開催 ラオス

ICF の年次運営委員会が、ラオス・ビエンチャンにて 10 月 1 日～4 日の日程で開催されました。この運営委員会の出席者は、ICF のスタッフ、APAY 山田公平総主事、アジア・キリスト教協議会（CCA）総幹事、および ICF のプロジェクト担当者です。

ICF により昨年開催されたプログラムである、今年 2 月から 5 月、インド・バンガロールにて行われた 14 週間にわたる平和学校や、9 月に始まった今後の ICF のプログラムに向けて平和学校修了生をコミュニティー運営および人権に関するリソース・パーソンに育てるワークショップについて、評価会を行いました。「変革のためのツール（教育とアドボカシーのための芸術・アート、演劇、音楽の活用）」に関して、第 3 回となるワークショップが 12 月にカンボジア・シェムリアップで行われる予定です。また、10 月 20 日～26 日に開催された、アジアの多様な先住民たちが自身の宗教・スピリチュアリティー、伝統、慣習の観点から平和、平等、環境について話し合うワークショップについても話されました。この内容は、先住民たちの見識や知見が共有されるよう近々出版される予定です。

過去の ICF プログラムの評価や 2015 年までの ICF の活動のビジョンの議論の後、今後の 2～3 年間の ICF によるプログラムについて集中的に話し合いました。コミュニティー運営、人権、変革のためのツールや、先住民のスピリチュアリティーや平等についてのワークショップが来年行われた後、2013 年 2 月に子どもたちへの平等性の教育についてのワークショップが、同年 10 月にトラウマ・ヒーリング・プログラムに関するワークショップを開催することが決定されました。

さらに最も重要な決定は、来年の中ごろに、南アジア地域のための平和学校をスリランカにて開催するということです。この決定は、インド・バンガロールで開催されてきたアジア全域を対象とする 14 週間の平和学校から、予見可

能な未来を目指し、サブリージョンのレベルでの活動を行うことへと、ICF が大きくシフトしたことを示します。新たな方向性へ向かって、2014 年には 2 回目のサブリージョンの平和学校を開催予定で、詳細は今後決定されます。

ICF の各加盟国では、2012 年末までに選ばれたカンボジア、インドネシア、ネパール、フィリピンとタイ／ビルマの新しいナショナル・コーディネーター会議が、ナショナル・コーディネーターの役割について、2013 年 1 月に開かれます。ICF コーディネーターの Max Ediger 氏は、ラオスで新しい宗教間の平和を目指す新しい運動が、バンガロールでの平和学校修了生 5 人が中心となって立ち上げられることを報告しました。また、タイの宗教間プログラムに 2 年間かかわっていた、ビルマの平和学校修了生が自国でも運動を始めることになっています。Ediger 氏は、バングラデシュ、東ティモール、ベトナムでも今後数年のうちに各国での運動が開始されることを期待しています。

写真右の Elizarni さん（インドネシア・アチェ出身の運営委員）がフィリピンの Halima Abdullah さん、ICF コーディネーターの Max Ediger 氏、APAY 総主事の山田公平氏に意見を述べている様子。

平和学校修了生、インドネシアと東ティモールのプラン策定

インドネシアと東ティモールからの平和学校修了生が、9 月 22 日から 2 日間の日程でジャカルタにて開催されたミーティングに出席し、自分たちの働きや抱える課題について評価し、今後数年間の自国における平和を目指す宗教間の運動を計画しました。出席者は、香港の APAY 事務局に常駐する ICF の Bruce Van Voorhis 氏、平和学校修了生でカンボジアの ICF の新しいスタッフとなった Keo Vichith 氏、およびインドネシアのアチェ、バンダン、スラバヤ、ポソ、パプア、ジャカルタと、東ティモール・ディリからの平和学校修了生でした。

修了生たちは、11 月 25 日～12 月 10 日の 16 日間、アチェで行われる女性に対する暴力反対キャンペーンにおいて、女性と多元主義に関するワークショップ、映画上映、食事の提供や村の民話の語り部を行うイベントを 1 日開催することにしました。

ポソ出身の 2 人の平和学校修了生は、テンテナにある女性グループ「モシントゥウ・インスティトゥート（Mosintuwu Institute）」とセントラル・スラウェシ州でワークショップを共催することを提案し、ポソのプサントレン（pesantren。訳注：寄宿制イスラム学校）やテンテナのキリスト教神学校のユースたちが宗教間のユース・スクールを立ち上げるための第一歩としたいと考えています。他の平和学校修了生は、リソース・パーソンとして招待される予定です。（訳注：交通の要衝であり多様な宗教的背景を持つ人々が暮らすポソは、1998 年から 2001 年までの「ポソ宗教戦争」に起因するイスラム教徒とキリスト教徒の衝突によって 1000 人が死亡した）

まだパプアや東ティモールでの具体的な計画はありませんが、パプア出身の修了生 2 人は、地元の先住民のユースと関係を作り、彼らのかかわる課題について学びたいと考え、また東ティモールからの修了生は、ディリYMCAのスタッフという新たな役割を活かした活動を計画したいと考えています。

平和学校修了生による準備委員会ではカリマンタン島、東ヌサ・テンガラ州（訳注：キリスト教人口が 9 割を占める）、モルッカ諸島のアンボンにも、宗教間平和ネットワークを拡大したいという要望が示されました。

ジャカルタでのミーティングに先立ち、Bruce と Vichith 氏はポソ出身の平和学校修了生 2 人を訪ね、10 年以上前からキリスト教徒とムスリムの間の戦争により国内避難民となっている人々へのワールド・ビジョンを通した働きや、インドネシア語の略称 KPPA として知られる Women's Political School and Banua Ananggodi、別名 House of Children による Care Community for Women and Children プログラムを通した働きについて学びました。

スラウェシ島ポソの Women's Political School のメンバーによると、KPPA のプログラムによって得たものは、女性の権利、演説、ドメスティック・バイオレンス、公共政策へのアドボカシーなどとのことです。

Banua Ananggodi、別名 House of children は、ポソの KPPA による宗教間平和のプログラムであり、異なる宗教や民族的背景を持つ 7 歳から 17 歳の子どもたちがともに、人道主義、多元主義、ジェンダー公正、環境保護などについてさまざまな活動を通して学びます。2010 年以降、400 人もの子どもたちがこのプログラムに参加しました。

2012 年 10 月 13 日、世界中のYMCAでは、バスケットボールのシュートをするイベント、YMCAワールド・チャレンジを開催しました。アジア・太平洋地域からの写真を数枚紹介します。このイベントを企画運営し、また積極的に参加してくださったYMCAの皆様に感謝申し上げます。

APAY の今後のプログラム実施予定

日程	プログラム名（開催地）
1 月 15 日 ～20 日	南アジア地域ユース・ミーティング （バングラデシュ）
2 月 12 日 ～14 日	世界YMCA同盟　各国総主事会議 （イギリス）
3 月 5 日 ～10 日	APAY 常務委員会および関連行事 （香港） 5 日午後～6 日朝：ガバナンスおよびリソース・モビリゼーションに関するトレーニング 5 日夜：各国総主事会議 6 日朝：ユース委員会 6 日午後～8 日夜：APAY 常務委員会 8 日～10 日：ユース代表対象トレーニング （ウーカイシャ）
3 月か 4 月	南アジア・東南アジア地域災害対策ワークショップ

発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia　and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org